



柳田法相が辞任

国会軽視発言で引責

後任、仙谷氏が兼務

柳田稔法相(56)は参院広島選挙区は22日午前、菅直人首相と官邸で会談し、自らの国会軽視発言の責任を取り辞任する意向を伝えた。首相も了承した。9月に発足した菅改造内閣で初の閣僚辞任。後任は当面、仙谷

由人官房長官が兼務する。首相との会談後、柳田氏は記者団から内容について尋ねられ、「後で」と答えるにとどめたが、同日午前、記者会見し、正式に辞任の意向を表明した。

柳田氏は21日、「今後とも真摯に国会答弁を行いながら頑張っていくたい」と述べ、自民党が参院に問責決議案を提出した場合でも続投する方針を表明していた。しかし、決議案は野党の賛成多数で可決される見通しで、

2010年度補正予算案の審議への影響を避けるためにも身を引くべきだと判断したとみられる。首相は事態の早期收拾を図る考えだが、野党は任命責任を厳しく追及する方針。内閣支持率低迷に苦慮する首相にとって大きな打撃となるのは必

至だ。柳田氏は14日、広島市で開いた国政報告会で、大阪地検特捜部の証拠改ざん隠ぺい事件などに言及。「個別の事案については答えを差し控える」「法と証拠に基づいて適切にやっている」のフレーズを挙げ「法相はいい。二つ覚えておけばいい。分からなかったらこれを言う」などと発言した。これに対し、自民党は「法相としての資質を欠いている」(谷垣禎一総裁)として問責決議案と衆院での不信任決議案の提出方針を表明。ほかの野党は賛成方針を固めていた。



首相官邸を出る柳田法相＝22日午前8時25分

6月に発足した菅内閣では、亀井静香金融・郵政改革担当相(国民新党)が郵政改革法案処理の先送りに反発し、辞任している。